



題字は、明治 39 年 10 月 1 日陸軍大臣寺田正毅から外務大臣林董宛に提出した文書（外交史料館所蔵）より抜粋。
 紋様は、尾形光琳：『八橋蒔絵硯箱』東京国立博物館所蔵より。

目次

- ビデオ上映会のお知らせ
「日本の激流の中で」
- シンポジウム開催報告
- 「シンポジウムが終わって」小坂一夫
- ファンクラブ見学会のお知らせ
- 「江戸湾防備から第三海堡まで」展
開催のご案内
- 由良要塞（友が島）探検記速報 飯国琢史
- 会則／入会案内

ビデオ上映会のお知らせ

「日本の激流の中で」L. ハステレン監督作品

主催：東京湾海堡ファンクラブ
 日時：2月27日（日）午後2:00～4:30
 会場：富津公民館
 会費：無料（申し込みは不要です。）



『日本の激流の中で』ビデオ版の表紙

明治時代、東京湾海堡は欧米の先進技術を学んで建設された。第一海堡・第二海堡・第三海堡の計画・設計に当たっては、イギリス、プロシアの砲台やロシアのクロンシュタット海堡に学んだ。陸軍の担当者たちは多くを欧米の文献に学んだが、文献に頼るだけでなく、明治政府は実際に欧米の技術者や軍人に調査を依頼した。

明治政府は、明治 5 年 (1872) 9 月、フランス参謀中佐マルクリー (C. A. Marquerie) に東京湾を視察させ、『海岸防禦法案』を提出させた。明治 8 年 (1875) には、フランス陸軍中佐ミュニエー (Munier) に日本南部海岸を調査させ、『日本国南部海岸防禦法案』を提出させた。第一海堡の建設に当たっては、明治 14 年 (1881) 7 月にオランダ土木技師ムルデル (A. T. L. R. Mulder, 1848～1901) に現地踏査をしてもらい、地質・潮流の検査をしてもらうとともにこれまでの試験結果、海堡図面を示したところ、海堡建設が可能であるとの回答が得られたので、建設に関する確信がさらに深まった。さらに、明治 16 年 (1883) 11 月にはオランダ工兵大尉ワンスケランベック (P. G. van Scherambeck) に東京湾を調査させ、12 月に『東京湾巡視復命書』を提出させた。この中でワンスケランベックは観音崎～富津海峡における海堡構想を論じている。第三海堡建設に当たっても、オランダのロッテルダム港から鉄筋コンクリートケーソン技術を学ぶなど、欧米の先進技術が導入された。

東京湾海堡建設の全体の流れの中で、「欧米からの先進技術導入」が、伝統技術の活用とともに大きな柱となっていた。東京湾海堡建設史において、「欧米からの先進技術導入」という側面を見逃すことはできない。

オランダのドキュメンタリーフィルムの大家、ハステレン監督（L.V. Gasteren）が10年の歳月をかけて日本で取材して制作した映画『日本の激流の中で』が2002年に完成し、オランダと東京で試写会が行われた。ここでは、明治時代に日本政府に招かれ、日本の国土開発に活躍したオランダ水工技師達の事績が描かれている。この中には、第一海堡建設に当たって地質・潮流の調査や設計を行ったムルデルも描かれている。「欧米からの先進技術導入」の経緯と成果、その過程における技師たちの苦悩を描いている点において、この映画は東京湾海堡建設が直面した問題と共通している。そこで、今回、ビデオ版を入手することができたので、上映会を開催することとした。

会員ならびにご友人たちの参加を期待したい。

(島崎武雄)

明治時代に来日したオランダ水工技師一覧表

名前	資格	月給 (末日当切)	雇用期間									
			(1872)	(1877)	(1880)	(1887)	(1890)	(1897)	(1902)	(1907)		
ドールン C.J. Van Doorn (1837~1906)	長工師	500円										
			1872.3.24~1875.4.10 (明治5.2.16)	1876.4.2~1880.7.22								
エッセル G.A. Escher (1843~1939)	1等工師	450円										
			1873.9.25~1878.8.30									
ムルデル A.T.L.R. Mulder (1848~1901)	1等工師	475円										
			1873.3.25~1886.6.12	1887.5~1890.5.11								
リンド J.A. Lindo (1847~?)	2等工師	400円										
			1872.3.24~1875.10.31 ¹⁾ (明治5.2.16)									
チッセン A.H.T.K. Thissen (1909~?)	3等工師	350円										
			1873.11.15~1876.11.14									
デ・レーケ J.de Rijke (1842~1913)	4等工師	300円										
			1873.9.25~1903.8.18									
ウェステルウィル J.N. Westerwiel (1839~?)	工手	100円										
			1873.11.15~1876.11.14									
カリス J.A. Kalls	工手	100円										
			1875.5.14~1877.5.13									
アルンスト D. Arnt	工手	100円										
			1873.9.25~1880.12.27									
マストレクト A.van Mastrijt	工手 (推定)	100円										
			1873.3.25~1881.2.4									

〔資料〕建設省土木研究所下流工事事務所：『デ・レーケとその業績』、1907.10.9

ただし、次の資料により、リンドの雇用期間を修正した。

1) 『海軍建設局員録』ドールン(並)リンド(別冊)官同公使ヨリ通知之件；〔各省市府領外領人官備一件 各領ノ部 5. 和蘭人之部〕、外務省記録
2) 大久保利通：『土木事業員入三名履歴表之備考』、明治8年(1875)10.18、公文録

〔資料〕淀川工事事務所：『淀川オランダ技師文書（欧文関連編）』、1997.3



銚子水準原標石の前で

(左よりヨーク夫人、ヤコブス駐日オランダ大使、ハステレン氏、2002. 11. 20、銚子にて)



ハステレン氏とオランダ皇太子夫妻

(左よりハステレン氏、皇太子夫妻、2002. 9. 27、ハーグで行われた試写会にて)

シンポジウム開催報告

2004年12月18日(土) 富津公民館において、国土交通省東京湾口航路事務所主催の「東京湾海堡シンポジウム」が開催されました。

●概要

東京湾海堡は、人工島建設としての先駆であり、明治時代の大きなプロジェクトであった。現在、国土交通省は、浦賀水道航路に隣接した第三海堡を航路の安全確保のために撤去工事を進めている。

東京湾海堡建設の意義を広く一般市民に理解していただき、現存する第一海堡と第二海堡の可能性を探ることを目的に

「東京湾海堡シンポジウム」を12月18日(土)富津公民館にて開催した。「東京湾海堡シンポジウム」は、昨年の横須賀での開催に続いて、2回目の開催となる。富津市民を中心に一般公募で参加した約450人が講演や演劇、パネルディスカッションに聞き入った。

●内容

12月18日(土)、国土交通省東京湾口航路事務所が「東京湾海堡シンポジウム」を千葉県の後援のもと、富津市共催で行った。『房総から東京湾海堡を語る』と題し、(社)日本港湾協会名誉会員・小野寺駿一氏の記念講演、東京湾学会理事長・高橋在久氏による基調講演、地元高校生による演劇、パネルディスカッションによって東京湾海堡と房総の関わりについて語った。

小野寺駿一氏は、東京湾海堡の建設経緯と技術的な特徴、さらに、建設当時は最先端技術を駆使した工事であったことや作業員として房総の人々が携わったことを紹介した。



講演する小野寺氏(富津公民館 12月18日)

地元・富津市出身の高橋在久氏は、富津市に伝わる海堡建設従事者の労働歌や海堡用の煉瓦製造、運搬用の船についての話を紹介した。さらに、富津岬と海堡が作る風景と環境に対し、保護と活用を訴えた。



講演する高橋氏(富津公民館 12月18日)

演劇「『海堡技師』より」は、海堡建設をテーマにした岩野泡鳴原作の瞑想詩劇『海堡技師』を千葉県立君津高等学校・酒井一成教諭が朗読劇として構成した。文語体で語られる詩に歌を交えた演出によって、建設当時の様子を伝えるもので、君津高等学校・演劇部員が熱演し、観客の大きな感動を呼んだ。



千葉県立君津高等学校による演劇
(富津公民館 12月18日)

パネルディスカッションでは、テーマを『第一海堡と第二海堡の可能性』とし、日本大学教授・伊東孝氏の進行で、千葉県立中央博物館 生態環境研究部長・中村俊彦氏、国学院大学講師・高村聡史氏、富津市文化財審議委員・小坂一夫氏、東京湾口航路事務所所長・坂本正俊の5名によって、環境、文化財、景観、郷土史、航路整備事業などの視点から活発に議論された。

中村氏は、豊かな富津岬の自然環境について紹介し、海堡建設当時の石積みなどの工法などを使うことで、保全と活用が図れるのではないかとした。

高村氏は、横須賀市に残る古文書を紹介しながら、海堡の近代化遺産としての価値を説明し、地元自治体が戦争遺跡登録などに積極的に乗り出していくことが大切であるとした。

小坂氏は、富津市内に伝わる海堡建設工事における表彰状や犠牲者の碑を紹介した。さらに、第一海堡南側護岸の崩壊が進んでいるため、早急な方策が必要であるとした。

坂本所長は、航路事業の説明と、猿島における横須賀市の取り組みを紹介した。

最後に、近代化遺産としての価値が非常に高いこと、その活用については地元の意向をまとめ、積極的に提案していくことが重要であるとのパネリスト共通の意見が出され、会場から賛成の拍手が響いた。

(高橋悦子)



パネルディスカッションでは、多方面から海堡について語った。

(富津公民館 12月18日)

シンポジウムが終わって

小坂一夫

このシンポジウムをやると知ったのは、昨年6月頃で、同級生の松本 富津公民館長からであった。「12月にやるのに半年前に準備するんだと感心した。」富津市で行われるので、共催者として国土交通省から富津市長へ挨拶に見えるということだった。その時は、白井市長だった。たまたま、9月に市長選挙があることがわかっており、1つ先輩の佐久間現市長の出馬準備のお手伝いをしている最中であった。心の中では、

「12月には、新市長として挨拶できるといいな」と思っていた。実現できてよかったが、国土交通省東京湾口航路事務所の坂本所長には、再度、市長訪問ということになり、2度、市役所までご足労かけることになった。

開催日の2ヶ月前の10月に東京で打ち合わせがあったが、体調を崩してしまい欠席せざるを得ず、関係者の方に迷惑をかけてしまった。

入場者最低500名確保のため、松本館長と地元の富津小、富津中、県立天羽高校、君津商業高校は、勿論のこと、新日鉄君津製鉄所、東京電力富津火力発電所までお願いに行った。その日がくるまでは、館長と「今日は何人申し込みがあったか」が毎日の話題であった。茨城県からも、富津出身の人が申し込んでいたようだ。

当日は、好天に恵まれたが、時化でなかったため漁業関係者の出席が少なく、学校関係者の出席も少なかったのも残念であった。

しかし、当日の県立君津高校演劇部の熱演は、素晴らしいものがあった。1週間前のリハーサルを見た時から、顧問の酒井先生の指導を熱心に「ハイ、ハイ」と聞く素直さ、統制のよさに感心し、当時の海堡工事の様子がよくわかった。東北弁を富津弁にしてくれたら、もっとよかったと思う。1回きりの公演では、もったいない気がする。

国土交通省が、第三海堡を調査してくれていることから、第一海堡、第二海堡関係の史料が浮かんできた。海堡に関することは軍事機密だった上、大正9年(1920年)に「富津の大火」があり、地元では史料がなかったもので、工事に関わったことがわかる貴重な史料であり、それを足がかりに今まで知られていないことが、わかってきた。

テレビの録画があり、後日、東京 MX テレビ、千葉テレビ、テレビ神奈川の各局から30分番組で放映された。よくまとめられていた。

これからまず必要なことは、海堡の案内板がないので、明治100年記念展望台付近と潮干狩り場に設置できればよいと思う。

富津でシンポジウムを開いていただき、ありがとうございました。先祖が汗水たらして造った海堡保存にご理解とご協力をお願いします。



パネルディスカッションにて(小坂一夫氏)

ファンクラブ見学会のお知らせ

- 開催日：3月19日(土) 13:00~16:00
- 集合場所：富津公民館
- 見学コース：大乘寺→長秀寺→元洲砲台→富津岬→埋立記念館

詳細は、後日連絡いたします。

「江戸湾防備から第三海堡まで」展
開催のご案内

横須賀市立中央図書館において、西田副会長の講演がありますので、ご案内します。

「江戸湾防備から第三海堡まで」展
—会津藩は横須賀で海防にあっていた—

1 パネル展

協力：東京湾口航路事務所、御茶ノ水女子大、
埼玉県行田市

(1) 開催日時

3月1日（火）から27日（日）

午前9時30分から午後5時20分まで

(2) 開催場所

横須賀市立中央図書館（横須賀市上町1-61）

3階 会議室及び視聴覚ホール

(3) 内容

寛政年間から明治時代までの海防を通して横須賀の
歴史を探る。

パネルや関係書物などでわかりやすく展示する。

2 記念講演会及び映画会（先着70名）

(1) 3月1日（火）午後1時30分から

横須賀市立中央図書館 2階 視聴覚ホール

講演「海堡と西田明則」-和算の贈り物-

講師 西田好孝 氏（東京湾海堡クラブ副会長）

(2) 3月5日（土）午後1時30分から

横須賀市立中央図書館 2階 視聴覚ホール

映画「東郷元帥を偲ぶ」共催 三笠保存会

東郷元帥の生涯記録フィルム、東郷元帥の肉声が収録された貴重な資料

(3) 3月12日（土）午後1時30分から

横須賀市立中央図書館 2階 視聴覚ホール

演題「近代国家成立の発端となった生麦事件」

講師 生麦事件参考館 館長 浅海武夫 氏

*共催 逸見話し方教室

(4) 3月27日（日）午前10時から

横須賀市立中央図書館 2階 視聴覚ホール

演題「江戸湾防備から第三海堡まで」

講師 横須賀市立中央図書館 館長 今原邦彦 氏

由良要塞（友が島）探検記速報
（2004年12月30日）

飯国琢史

由良要塞は、大阪湾にある要塞で、その中の友が島砲台を紹介します。詳細は次回に報告します。



①この船で いざ出発



②目指すのは、あの島



③荒れた山道を登る



④発見 門柱だ～



⑧こんな空間が



⑤ここから要塞内部へ



⑨更の上へ上がる階段が



⑥中は真っ暗 奥に階段が



⑩先は行き止まり



⑦奥の階段を上ると



⑪隣に弾薬庫が



⑫見上げてごらん アー蜘蛛!!



⑬砲台を上から見ると



⑭別な所に螺旋階段が



⑮山頂には観測所が



⑯ここでやっと外へ



⑰観測所の中



⑱これが砲台、砲座跡



⑲これが記念碑（左は、28 cm榴弾砲の弾）

東京湾海堡ファンクラブ会則

第1条 (名称)

当会の名称は、「東京湾海堡 (とうきょうわんかいほう) ファンクラブ」とする。

第2条 (目的)

当会は、東京湾海堡を核にして人の輪をつくり、東京湾海堡の歴史の検証と普及、遺跡の整備と愛護、ランドマークとしての理解を深め、東京湾の歴史と未来をつなぐことを目的とする。

第3条 (事業)

- 当会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
- (1) 東京湾海堡に関する研究会、講演会、見学視察会の実施。
 - (2) 会報の発行 (年4回)。
 - (3) 東京湾海堡に関する資料・情報の収集。
 - (4) その他、東京湾海堡への理解と愛護を深める活動。

第4条 (会員)

当会の目的、事業に賛同する個人または法人 (グループを含む) を会員とする。

第5条 (入退会と会費)

当会に入会しようとするものは、入会申込書により会長に申込みの申すものとする。会長は、正当な理由がない限り、その入会を認めなければならない。当会を退会しようとするものは、退会届けを会長に提出し、任意に退会することができる。

会員は、下記の年間会費を納入する。

- 年間会費は、個人会員 2,000 円、法人会員 10,000 円とする。
会費は、毎年4月に支払うものとし、会費を支払わないときは退会したものとみなす。

既納の会費は、いかなる理由があっても返還しない。

第6条 (総会)

- 総会は、当会の議決機関であり、年1回の通常総会および臨時総会とする。
- (1) 総会は、会員をもって構成する。
 - (2) 総会は、会員の過半数を定足数とする。ただし、定足数については委任状をもって代えることができる。
 - (3) 総会の議決は、出席した会員の過半数の賛同をもって行う。可否同数の場合は、議長が決するところによる。
 - (4) 会長は総会を召集し、総会の議長を勤める。
 - (5) 総会は、前年度の事業報告および収支決算の承認、当年度の事業計画および収支予算の決定、役員を選任、会則の変更、解散、合併、その他総会または役員会が必要と認める事項について議決を行う。

第7条 (会員の権利)

- 会員は、次の権利を有する。
- (1) 総会に参加すること。
 - (2) 研究会、講演会、見学視察会に参加すること。
 - (3) 会報の無料配布を受けること。
 - (4) 収集した資料・情報を閲覧すること。
 - (5) その他、当会が行う東京湾海堡への理解を深める活動に参加すること。

第8条 (資格の喪失)

会員が次の各号に該当するときは、その資格を喪失する。

- (1) 退会したとき。

第9条 (役員)

当会は、役員として、会長1名、副会長1名、幹事 (事務局長)、幹事 (会計) を含め、15名以内の幹事をおく。

役員は会員から総会において選任する。役員は任期は通常総会から次の通常総会までとするが、再任を妨げない。

第10条 (役員職務)

会長は、当会を代表し、その業務を総務する。副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。役員は役員会を組織し、当会の業務を行う。

第11条 (会計)

当会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第12条 (事務局)

当会の事務局事務所は、東京都台東区東上野2-7-6 東上野 T.I ビル (株) 地域開発研究所内におく。事務局には事務局員若干名をおく。事務局員は会長が選任する。

第13条 (付則)

当会則は、2003年6月21日から改定実施する。

役員

- 会長 高橋在久 (東京湾学会理事長・江戸川大学名誉教授)
副会長 西田好孝 (東京湾海堡建設従事者子孫代表)
幹事 仲野正美 (横須賀市立衣笠小学校教頭)
幹事 安室真弓 (東京湾学会理事)
幹事 小坂一夫 (富津市文化財審議委員)
幹事 松本庄次 (富津公民館長)
幹事 小沢洋 (富津公民館主査)
幹事 朝倉光夫 (東亜建設工業 (株))
幹事 西田信吉 ((株) 港建技術サービス)
幹事 長崎哲士 (彫刻家)
幹事 勝 巖 (新横商事 (株))
幹事 高橋克 (千葉県文化財課)
幹事 渡辺京子 (富津滞の会幹事)
幹事 (事務局長) 島崎武雄 ((株) 地域開発研究所)
幹事 (会計) 高橋悦子 ((株) 地域開発研究所)

入会案内

東京湾海堡ファンクラブの活動主旨にご賛同いただける個人・法人 (グループを含む) の入会を募集しております。

入会希望者は、下記入事務局まで申込み用紙をご請求ください。申込み用紙は、ホームページ (<http://www.babu.jp/~kaihoufc/>) からでも入手できます。

会費は下記口座にご送金ください。

銀行振込口座

- 東京都民銀行 御徒町(オチマチ)支店 普通預金 4011598
「東京湾海堡ファンクラブ会計高橋悦子 (トウキョウワンカイホウファンクラブカイケイタカハシエツコ)」
 - 郵便局 00140-9-665909「東京湾海堡ファンクラブ」
- 会費(年間) 個人会員：2,000円 法人会員：10,000円

事務局 〒110-0015 台東区東上野 2-7-6 東上野 T.I ビル

(株) 地域開発研究所内 東京湾海堡ファンクラブ事務局

事務局長：島崎武雄 会計：高橋悦子

電話 03-3831-2916 FAX 03-3836-4048

HomePage : <http://www.babu.jp/~kaihoufc/>

E-mail : kaihoufc@babu.jp

E-mail を事務局までご連絡ください。

見学会やシンポジウムの案内など、郵送より早くお知らせすることができます。

皆さまからのお便りをお待ちしています。

「海堡」に投稿ください。葉書、手紙、E-mail、写真、ご意見、近況、作品、随筆など、事務局までお寄せ願います。

第一海堡、第二海堡の活用方法についてのご意見もお待ちしています。

「海堡」 *kaihou* No. 7

—東京湾海堡ファンクラブニュース— 第7号

東京湾海堡ファンクラブ 2005年2月3日発行